



特集

震災資料の利活用

人と防災未来センター資料室では、収集した一次資料の貸出を行っています。写真資料の貸出には通常スキャンしたデータを用いていますが、モノ資料の場合は実物を貸し出します。他の博物館・美術館・郷土資料館等に貸し出した資料が展示されたり、写真や映像の形で公開されることを通じて、震災資料は、資料提供者のみならず当時の体験を後世に伝えていきます。

これまで閲覧・貸出希望の多かったモノ資料は、地震の衝撃の大きさを視覚的に伝えることのできる、歪んだ側溝の蓋や5時46分を指して止まった時計などでした。それらが物語る地震・震災という出来事は、多くの人々の心にその大きさや深刻さを伝え、未来の安全・安心に向けて何ができるかを考えるきっかけを与えてくれます。

しかしながら、震災資料の見方、読み方は上述の防災啓蒙のみに限られません。2016年3月に発行したセンター所蔵資料図録には、ほぼすべてのモノ資料を一様の形態で掲載しました。資料室として震災資料に向き合うにあたっては、すべての資料を等しくみなす必要があります。これまでの利活用例や取材等に際しても、どの資料がメッセージ性の高いものか、平たく言って紹介するのにおすすめかを問われることが多々ありました。それに対しては、いつも、全震災資料は等価であることを伝えていきます。

なぜならば、見ようとする方、読もうとする方それぞれの経験や思考に基づく解釈によって、異なる意味を感じさせるのが、当センターの震災資料であると考えためです。多くの方が共感する場面もあれば見たこともない災後の日常風景もある、ある年齢の方には通じる固有名詞も世代が変わればわからない、そうかと思えば時期が変わればどの事物にも共感して懐かしく思う。暮らしとはそういうものではないでしょうか。

また、記憶され、記録されてきた震災資料が、より多様に解釈されるケースも考えられます。いわば書物と翻訳の関係にも似た、通訳不可能性を越えて転移、変容するフェーズが、震災から22年を迎える現在、そしてこれから、震災資料と表現にも訪れるのではないかと思います。

例えば今年度、資料室では兵庫県立美術館にて2016年10月15日から11月20日まで開催された高橋耕平さんによる展覧会「街の仮縫い、個と歩み」の制作に際して、協力を行いました。モノ資料や写真資料等の一次資料を、震災の被害検証や防災啓蒙とは異なる観点から、このまちと向きあうため、オリジナルな表現を生み出すためにお使いいただきました。この例には、新しい「震災資料の利活用」の一形態が表れていると考えています。

本号では、震災資料の利活用について、その手続きやこれまでの事例を紹介いたします。これによって、より多くの方々に震災資料への関心を持っていただき、利活用の可能性が広がることを願っています。

2016年度の震災資料の利活用例

兵庫県立美術館
注目作家紹介プログラムチャンネル7
高橋耕平「街の仮縫い、個と歩み」

開催日 2016(平成28)年10月15日(土) - 11月20日(日)
会場 兵庫県立美術館ギャラリー棟1階アトリエ1 ホワイエ
観覧料 無料

(この展覧会は終了しました)



関連イベント

対談

村上しほり×高橋耕平

11月19日(土) 15:30-17:00
於 レクチャールーム

◀ 県立美術館での設営の様子

当センターにお預けいただいた18万点を超える震災資料。これらをどのように活用し得るか考えるとき、調査・研究目的での閲覧、教育・啓蒙目的での閲覧や上映、記憶・文化継承目的での閲覧や貸出や展示などが想定できるでしょう。

次頁では、これまでの資料閲覧と貸出それぞれの件数の推移と、代表的な事例を紹介いたします。

② 一次資料(モノ・映像音声)の貸出

一次資料のなかでもモノ資料や映像音声資料を館外に貸出した例は、2002年度から2015年度までに31件ありました。その多くは震災や災害をテーマとした展示のための貸出であったことが、下の表から読みとれます。

貸出依頼を受けた資料は、焼けた硬貨や壊れた掛け時計、溶けたガラス食器、壊れたカメラ、側溝の蓋など、地震の大きさや震災の悲惨さを視覚的に伝えるモノ資料が多く見られました。

このほか、炊き出しに用いられた鍋や、救援物資、応援のメッセージが記されたボード、震災の絵なども貸出され、展示された資料の例です。

伊丹市立博物館

「阪神・淡路大震災15年伊丹からの発信」 2010年10月2日～11月21日

伊丹市内外で起こったこと、残ったものを実物資料、写真、パネル等で展示した。

[貸出資料] ●救援物資缶詰 ●壊れた時計
●側溝の蓋等243点 (モノ資料50点)

首都圏巡回企画展

「1995.1.17から20年もう一度振り返る阪神・淡路大震災」 2015年1月14日～1月28日(日本科学未来館) 2015年1月31日～3月8日(消防博物館)

首都圏で当時の被災地の写真パネル展示やモノ資料の展示等を行った。

[貸出資料] ●焼け焦げた裁ちばさみ ●救援物資の乾パン
●水のいらぬシャンプー等11点



年度	種類	貸出先
2003	テレビ	毎日放送報道特別番組「西日本が沈む日」
	テレビ	放送機関震災特集番組
2004	展示	神戸海洋博物館企画展「イラストで綴る神戸港の半世紀」
	展示	国連防災世界会議(神戸)
	展示	コープこうべ生活文化センター「震災10周年メモリアル展」
2005	ラジオ	NHKラジオ番組「土曜ジャーナル」
	展示	「メモリアルフェスタin神戸税関」
	展示	毎日新聞大阪社会事業団寄付講座「災害救援学」(関西学院大学)
	上映	震災体験修学旅行生受け入れ事業(於灘区灘南通)
	展示	しあわせの村仮設住宅同窓会
	手記	手記の同窓会誌への転載
2006	展示	震災に関するセミナーでの展示(灘地域助けあいひまわりネットワーク)
	ウェブ	阪神大震災を記録しつづける会ウェブサイト作成
2007	展示	防災パーク2007(渋谷区)
	展示	奈良市生涯学習センター「もしもの時の体験講座」
2008	展示	日蓮正宗総本山大石寺「立正安国論記念展」

年度	種類	貸出先
2009	展示	神戸大学附属図書館「合同資料展 資料が語る阪神・淡路大震災の記憶と現在(いま)」
	展示	兵庫県立美術館「阪神・淡路大震災15年「震災の絵」展」
2010	展示	関西大学安全ミュージアムオープニング展示
	展示	伊丹市立博物館「阪神・淡路大震災15年 伊丹からの発信」
	展示	行田市郷土博物館「天変地異 災害の日本史」
2012	展示	日本銀行神戸支店阪神・淡路大震災15年特別展「今振り返る震災の記憶と、これから」(於人と防災未来センター)
	展示	鳥取市歴史博物館「鳥取大災害史～水害・震災・大火からの復興～」
2014	展示	神戸大学附属図書館資料展「つたえる・つながる～阪神・淡路大震災20年～」
	展示	兵庫県公館阪神・淡路大震災20年メモリアル特別展示「1995.1.17から20年 もう一度振り返る阪神・淡路大震災」
	展示	首都圏巡回企画展「1995.1.17から20年 もう一度振り返る阪神・淡路大震災」(日本科学未来館、消防博物館)
	式典	阪神・淡路大震災20年追悼式典(兵庫県公館)
	テレビ	サンテレビジョン「震災20年報道特別番組-記憶の再生-揺れた街から-」
2015	展示	名古屋都市センター企画展「その時に備える- 災害の記録と減災まちづくり-」
	展示	明石市立文化博物館「明石ゆかりの作家による震災画」
	展示	立命館大学国際平和ミュージアム「戦後を語る70のカタチ」

③ 二次資料(視聴覚資料)の貸出

映像貸出件数(点数)の推移



ビデオの貸出は2003年1月中旬より開始しました。当センター開館当初は館内閲覧のみでしたが、来館した自治体関係者や教育機関、自主防災組織などから、防災教育やイベントのために貸出を希望する声が多く寄せられ、阪神・淡路大震災復興支援館(フェニックスプラザ)で使用していたビデオを兵庫県から譲り受けたのを機に、貸出開始に向けて準備を始めました。

各ビデオの著作権者に貸出の可否を照会し、許諾を得られたビデオについて、営利を目的としない団体を対象として貸出を始めました。

翌2003年度から、毎年100～200件の貸出相談に対応し、送料のみ利用者負担で、1回につき2本1週間までの貸出を行っています。

その後、追加購入によって2016年11月現在では、貸出可能な二次資料(映像)の本数は、DVD124本、VHS22本となりました。

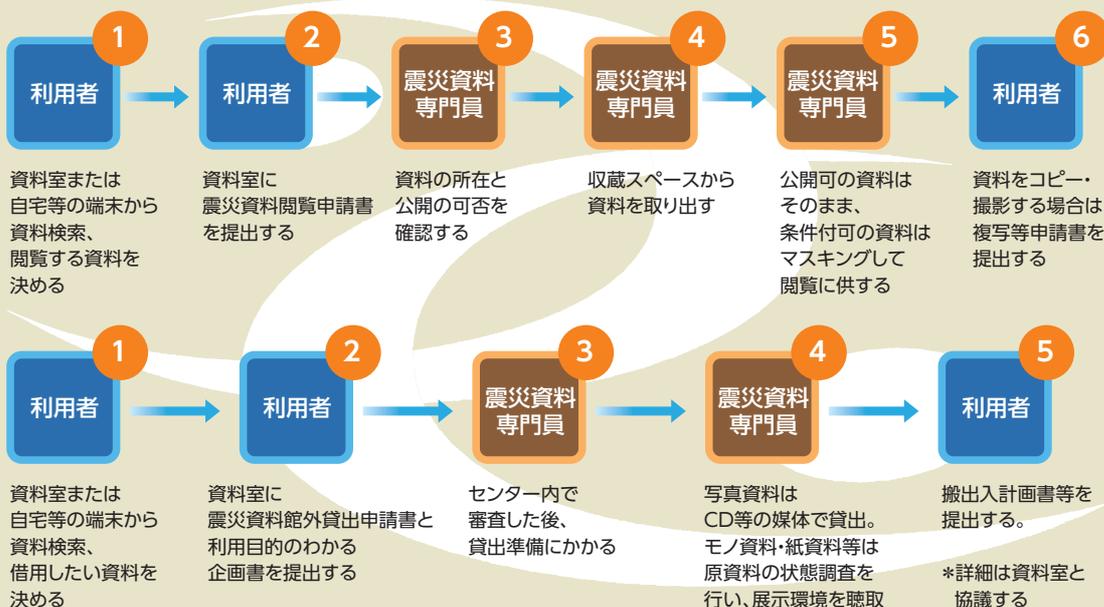
震災資料の 利用の手続き

一次資料は、センター西館7階または3階の収蔵スペースに保存されています。資料検索 (<http://lib.dri.ne.jp/search/>) を通じた資料目録と画像の閲覧に加えて、資料室に申請書を提出することで、モノ資料や紙資料や音声資料などの原資料を閲覧したり、閲覧した原資料や写真データの貸出を受け、展示や発表等の制作にも利用いただけます。

1 閲覧

PCやスマートフォン等の端末から資料検索で閲覧したい資料を探し、「震災資料閲覧申請書」を提出すると、資料室にて原資料を見ることができます。コピーや撮影による複写も可能です。

資料の所在と公開の可否を確認する必要があるため、当日お待たせすることのないよう、事前にご相談をお願いします。



2 貸出

閲覧した資料やその複写物は、展示や論文や各種情報発信に利用いただけます。「震災資料館外貸出申請書」と利用目的のわかる企画書等を資料室に提出いただき、センター内での審査を経た後、ご連絡します。

写真資料はデジタルデータをCD等の媒体でお渡しします。モノ資料はデジタルデータまたは原資料をお貸しします。

(参考)
http://www.dri.ne.jp/material/use_photos

右のグラフは、2002年度から2015年度までの閲覧件数(点数)の推移を示しています。最も件数が多かったのは、阪神・淡路大震災20年を迎える2014年度の71件(1322点)、最も少なかったのは2006年度の16件(79点)でした。



震災資料の これまでの利用事例

上記の閲覧・貸出による震災資料の利用には、どのようなものがあるのでしょうか。代表的な利用事例は、①写真資料の貸出、②モノ・映像音声資料の貸出の2つに分けられます。このほか、二次資料の視聴覚資料のうち、著作権者から貸出許諾を受けたDVD、VHSの貸出を行い、営利目的ではない団体による防災教育や啓蒙イベントのために利用いただいています。

① 一次資料(写真)の貸出

一次資料のうち、最も貸出の件数が多いのが写真資料です。写真資料のほとんどは、収蔵と同時にスキャンしており、貸出希望者にはそのデータを利用してもらっています。通常「貸出」というと、資料の実物の所在が一次的に移動するので、移動手段の確保や貸出前後で状態の変化がないかどうかの確認などを伴い、少々煩雑になります。その点、写真の場合は、実物の資料を複製したデータの利用なので、ほかの資料の貸出と比べると手順が大幅に省略できます。そういった手軽さや、視覚的な情報で、地震の衝撃や人々の復旧・復興の努力などを伝える力が強いことから、よく貸出されるものと思われます。



上のグラフは、2004年度から2015年度までの写真の貸出件数の推移を示しています。最も件数が多かったのは2014年度(130件)、続いて2010年度(99件)で、どちらも阪神・淡路大震災20年と15年の際の震災関連イベントや報道の多さと相関しています。

2015年8月から、貸出することの多い写真113枚がダウンロード可能になりました。この113枚は、もともとセンターのウェブサイトにて「貸出写真例」として掲載していたもので、家屋の倒壊や火災の写真、炊き出しの様子や仮設住宅の写真など、震災の被害状況や復旧・復興のための活動の様子がわかりやすいものとしてよく利用されてきました。毎年写真貸出のうち半分から3分の2程度をこの113枚が占めていました。

通常、写真の貸出のためには申請書の提出とセンター内での審査が必要で、申請から貸出までに1週間程度かかります。ダウンロード利用の場合、申請フォームを送信するとすぐに写真を利用できるようになります。

近年、震災に関する写真の多くが、インターネット上で利用できるようになっています。当センターに先行して、神戸市では震災から20年を迎える直前の2014年末から、市が保有する震災の記録写真約1,000枚とそのメタデータを利用して発行された冊子に、横倒しになった阪神高速道路の橋脚を写した写真が利用されました。今年度に入ってからの利用としては、学生が研究の参考として貸出を申請するケースが増えています。資料室の開架には、各自治体が発行した震災の記録誌がたくさんあります。それらの記録と、貸出した写真を合わせて検討して、研究の参考とされました。

貸出された写真は、書籍に掲載されたり、テレビ番組に使用されたりします。防災の啓発のため、あるいは震災の経験を伝えることを目的とする展示に使われることも多くあります。最近では、神戸で行われたG7神戸保健大臣会合に合わせて発行された冊子に、横倒しになった阪神高速道路の橋脚を写した写真が利用されました。今年度に入ってからの利用としては、学生が研究の参考として貸出を申請するケースが増えています。資料室の開架には、各自治体が発行した震災の記録誌がたくさんあります。それらの記録と、貸出した写真を合わせて検討して、研究の参考とされました。

センター所蔵の写真や、これまでの写真利用の成果物がさらに活用され、防災・減災の普及・啓発活動がますます広がっていくことを願っています。

震災資料のメッセージ2016

「1.17と鉄道・道路」

第2期 「1.17と道路」
2016年11月1日(火)～2017年3月26日(日)

資料室ニュースVol.60の特集でも取り上げた「震災資料のメッセージ」は、人と防災未来センターに寄贈された一次資料(震災当時に被災したり、使用されていたものの実物)を、年度ごとのテーマに沿って紹介するスポット展示の企画です。本年度は、「1.17と鉄道・道路」をテーマとし、暮らしに欠かせない「道」に着目しました。都市の生活を支える交通網の被災状況と復旧・復興の様子を震災資料から振り返ります。

10月末まで行っていた第1期「鉄道」では、阪急電車の扉とJR線の通勤定期券を展示し、被災地での鉄道復旧について紹介しました。

第2期「1.17と道路」では、阪神高速道路で宙づりになったバスの写真パネルと、復興物資輸送車両標章の実物を展示します。



資料名称: 高速道路から今にも落ちそうなバス
調査先番号: 1300322-000175
調査先名称: 神戸元気村

資料名称: 復興物資輸送車両許可書
調査先番号: 2600429-000001
調査先名称: 加納康之氏



展示中の写真パネルに写る高速道路は、阪神高速道路3号神戸線の西宮市本町付近です。バスの中では、乗客3名と運転手の4名が乗っていました。高速道路を走行中に地震が発生しますが、ぎりぎりバスは落下を免れました。停車後、運転手の誘導のもと車内後方の非常口を使って全員バスから脱出しました。

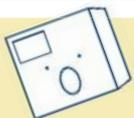
阪神高速道路が横倒しになっている様子は、新聞やテレビ等で多くの方が目にした場面ではないでしょうか。地震当日、3号神戸線(神戸市東灘区深江本町)では、延長635mにわたって17本のRC橋脚が柱の中間高さで破壊、橋桁が北側に倒れました。阪神高速道路は3号神戸線で1カ所倒壊、4カ所落橋、5号湾岸線で1カ所落橋等の大きな被害を受けました。その後、工事関係者延べ250万人、2,220億円(神戸線兵庫県域)を投じた復旧工事が進められ、5号湾岸線は1995年9月1日、3号神戸線が全線開通したのは、地震から1年半以上経った1996年9月30日のことでした。各地で交通規制がかかるなか、緊急・復旧業務や復興物資の輸送などの業務に使用する車両を優先して通すため、交付されたのが緊急通行車両確認標章です。今回、実物を展示している復興物資輸送車両許可書もそのひとつです。2011年の東日本大震災では、使用目的が決まった車両を事前に登録しておく事前届出制度が活用され、標章の交付を助けました。ここに阪神・淡路大震災の教訓が活かされたと言われています。

今回の展示では、バスの運転手さんの証言や、緊急通行車両確認標章の説明なども、パネルにして設置しています。

★トライやるウィーク★

今年もトライやるウィーク(中学2年生の職業体験)の受け入れを行いました。神戸市垂水区の歌敷山中学校、灘区の鷹匠中学校からそれぞれ2名の生徒さんが、2日間資料室で業務を体験しました。図書の整理や特集コーナーづくり、資料保存用の箱の組み立てや、模擬レファレンス(相談業務)体験等、日常資料室で行っている仕事を一緒に行いました。特集コーナーはテーマもおまかせしましたが、「絵で見てわかる!地震・防災について」と決めて、自分たちが読みやすい本を中心に選びました。特に面白いと思う作品には、手書きのオススメPOPもつけています。資料室にお立ち寄りの際は、ぜひ彼らのオススメを手にとってみてください。

また、今回は特別に本号1pで紹介した高橋耕平さんの展示「街の仮縫い、個と歩み」を兵庫県立美術館へ見に行き、Facebookページの記事で紹介するというミッションにも挑戦しました。歌敷山中学校では、トライやるウィークで体験したことをそれぞれがパワーポイントを使って発表するそうです。生徒さんたちはパソコン操作もお手の物で、私たちが驚いてしまいました。彼らのレポートは、ひとぼう資料室Facebookページ<https://www.facebook.com/dri.archives/>にて、ご覧いただけます。



震災資料を
お持ちの方に

人と防災未来センターでは、現在も震災資料の収集を続けています。震災後、すぐには手放せなかったものの、震災の出来事を伝えるために活用したいとお考えの方は、ぜひ一度資料室までご相談ください。

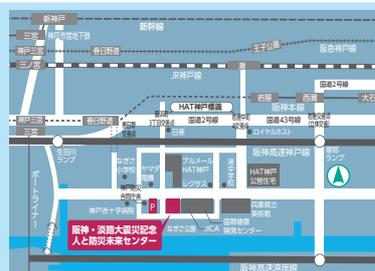
(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
DRI 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 資料室

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター西館5階
TEL.078-262-5058 FAX.078-262-5062

HPアドレス <http://www.dri.ne.jp>

開室時間 9:30～17:30(展示施設とは時間が異なりますのでご注意ください)

閉室日 毎週月曜日(月曜日が祝日又は振替休日の場合は翌平日)
12月29日から1月3日



資料室は無料で
ご利用いただけます

